

農林漁業者等との意見交換会について

平成 24 年 11 月 22 日
福島県農林水産部

1 開催概要

10 月 15 日より県内 14 会場において意見交換会を開催し、農林漁業者等 154 名（農業関係 95 名、林業関係 35 名、漁業関係 19 名、商業関係 5 名）より意見をいただいた。各農林事務所毎の開催を基本としながら、避難地域を含む 12 市町村にあつては、各市町村毎に意見交換できるように工夫した。

月 日	農林事務所
10月15日（月）	午前 相双（新地町、相馬市、浪江町） 午後 相双（南相馬市、飯舘村）
10月16日（火）	午前 相双（大熊町、浪江町、葛尾村） 午後 相双（関係団体）
10月17日（水）	午前 相双（広野町、楢葉町、富岡町、川内村、双葉町、浪江町） 午後 相双（広野町、楢葉町、富岡町、大熊町、双葉町）
10月18日（木）	午後 いわき
10月19日（金）	午前 県北（川俣町）
10月22日（月）	午後 県北
10月23日（火）	午前 会津 午後 南会津
10月29日（月）	午前 県中 午後 県南
11月13日（火）	午後 相双（双葉町）

2 主な意見等

(1) 農林水産業に共通する事項

ア 避難されている農林漁業者への支援について

- ・農地の地力の保持と併せて気力の保持も重要な課題（浪江町）。
- ・「やる」という意気込みがある人には、全国どこへ避難しても営農出来る制度を国が整えるよう要望して欲しい（双葉町）。
- ・帰還への判断材料として汚染状況をもっと詳しく教えて欲しい。また、除染技術を民間から広く集めるべき（双葉町）。

イ 除染・放射性物質対策について

- ・除染が前提。山から除染してくるべき。東京の消費者も含めて納得のいく除染をしなければならない（相馬市）。
- ・森林の除染がまずは基本だ。水源地が汚染されている場合は、その水を使って生産した米を検査してゼロだと言っても、風評で売れない（富岡町）。
- ・大柿ダムの水は大丈夫だが、底質は凄い放射能を含んでいる。そうした水を使って、農作物を作って大丈夫か、売れるのか（浪江町）。
- ・今後本格操業となると魚種が増え、また魚は新鮮さが重要であることから、検査体制の充実を計画に反映して欲しい（いわき市）。

ウ 安全性のPRについて

- ・来ていただいて現状を見てもらうことが大事。心の交流も含めてやっていかないといけない（会津若松市）。
- ・風評被害を払拭する為にモニタリングを数多く実施し、安全性についてマスコミに報道してもらえばこれからの漁業の復興に役に立つのではないかと（相馬市）。
- ・県全体で、戻ってくるように、しつこいくらいPRすべき。そうでないと、5年も帰って来ないと、もう戻らないと思う（広野町）。
- ・福島は知名度は良い意味でも悪い意味でも高くなった。利用すべきだと思う。こんなに変わった。日本の中でも最先端の農業をアジア等、海外にPRしていくべき（葛尾村）。

エ 地産地消について

- ・学校給食で、福島県内のものを敬遠しがちという話を聞いている。福島県民が一体となって、こういう危機を乗り越えていくということであれば、危険なものは提供出来ないというのは当然であるが、安全なものはPRしながら地産地消を大々的に出していく（会津若松市）。
- ・風評で材価が低迷、県産材の使用を控えるところもあると聞く。売れないと、材を搬出できず、事業が回らなくなってしまう。県産木材の利用促進を図る施策をお願いしたい（いわき市）。

オ 再生可能エネルギーの導入について

- ・風評被害があるので、口に入れないもの、燃料化するという事でプラントを誘致したい（飯舘村）。
- ・再生可能エネルギーを進めていくのであれば、プラントを2年後に整備するので、それを前提にバイオ稲を栽培する等の目標を見せてあげないと進まない。これは行政の仕事である（田村市）。
- ・バイオマスなどの非食用の作物は、国や県が買い取るなど、販売の計画を考えて、販路をしっかりと取り組むべき（双葉町）。
- ・会津の木質バイオマス発電の原料基準は100Bq/kgとなっており、相双地方の木は使えない。研究努力してほしい（相馬市）。
- ・農地転用の規制緩和が必要（南相馬市）。

(2) 農業関係

ア 営農再開について

- ・戻って農業を一生懸命やった場合、農業で所得を上げることができる。雇用についても確保される。生活するには十分なお金が稼げるなどの青写真が必要（双葉町）。
- ・帰還したら水耕栽培や施設型の栽培に頼らざるを得ない。また、口に入れるものは風評もあるだろうから、花の苗や嗜好品の栽培をやらざるを得ないのではないかと。また、水耕栽培を始める場合、新たな技術を要する。帰還するまで技術を習

得出来る機会を設けてほしい（浪江町）。

- ・帰還がなかなか進まないようであれば、避難者を労働力として活用して、一時的に経営再開したい。土地の斡旋などを支援していただければ（楢葉町）。
- ・今から帰還に向けて人を育てる。ただ認定農業者というだけでなく経営のノウハウを持った認定農業者を育てる取組が必要（葛尾村）。

イ 農業担い手について

- ・高齢の農業者が持っている技術を若い担い手に継承していく。絶やさないような取組が必要（葛尾村）。
- ・浪江町のアンケートでは、農地を買ってくれという農業者が多い。20ha、30haの農地を全国に公募すれば、やる気のある担い手が来るはず。そこで、新たな町民として受け入れるような町を築いて行くべき（浪江町）。

ウ 大規模化、組織化、法人化等について

- ・もう一度小高区の組織化を図りたい。2つぐらいの大きな組織を考えていきたい。公社の設立に向けて議論を進めており、後継者が戻るまで今いる人間で条件整備していきたい（南相馬市）。
- ・企業化して機械化を進め、また、飼育場所も1か所に集めて、効率的に行いたい。さらに、他の作目の導入を図ることも大事（広野町）。
- ・働くところと住むところを分離して、みんなで働くところに通う（いわゆる工場化）方向で進める考えもある。集団営農という形を考慮しないと1人でやると心が折れてしまう。3人とか5人とか集団で通いながら酪農をやりたい意見も出ている。NPOの立ち上げや集団営農の取組が出てきつつある（南相馬市）。

エ 新たな経営・生産方式について

- ・今までの農業経営から脱皮するために、新たな考え方として、バイオ燃料、植物工場を考えなくてはならない。あるいは、花の生産活動ができるかなと思う（川俣町）。

(3) 林業関係

ア 森林の再生について

- ・列状間伐等の手法、林業従事者の安全確保・高度な林業機械の導入により無用な被ばくを避けながら取り組んでいく必要がある（南相馬市）。
- ・間伐、木質バイオマスの利用にあっても、路網、作業道の整備が第一である（西白河）。
- ・今、搬出については非常に力を入れているが、このままいくと30年後には残った木を切るだけになってしまうのではないかと考えている。よって、これからは計画的に新植、手入れ、間伐、伐倒という森林整備のサイクル化を考えていって欲しい（会津若松市）。
- ・何も役に立たないということではなく、木を育てることが大事である。二酸化炭素削減の役割もあることだし、何かに使えるのだ、という観点で、木を（林業）

をとらえてほしい（浪江町）。

- ・木が使えないのであれば、CO2 吸収に応じて、ランク付けして支援していく。そうすれば森林の手入れは進むのではないか？フォレストック認証制度を参考にしてみたい（福島市）。

イ 林業担い手について

- ・林業作業はリスクが多い。60 歳前の人には林業には携わらないし、60 歳以上の方は 10 年後には 70 歳で山に入れない。そのブランクをどのように補うのかお聞きしたい（飯舘村）。
- ・原発事故に伴う避難、山に入れないため仕事していないなど、林業作業員が不足している（いわき市）。
- ・担い手の確保であるが、大面積ならば機械を投入して森林整備できるが、小規模ではそうはいかない（楢葉町）。
- ・労働者の安全・安心が得られるように健康管理をしっかりと行う必要がある。そうしないと若い人が労働に従事できない（東白川）。
- ・木材の販売 委託方式、販売方式から一発買い方式（現地で直接価格を算定し買ってもらう方式）の方が若い人の考えが強まっていくのではないか（小野町）。

(4) 水産業関係

ア 漁業生産基盤の復旧について

- ・第一原発の滞留水が放出されれば立ち直ることができない。計画の中に海洋への放出に反対するという文言を入れていただきたい（いわき市）。
- ・漁業者については、住む場所と働く場所は完全に分かれると思う。そうした意味でも施設を早く作らなければならない（相馬市）。
- ・残された船は、(古くて) 整備しても故障の確率も高く、効率的な商売がしにくい状況にある。ここ 3～4 年はがんばるしかないが、新たな設備投資ができれば、市内の船員の雇用、採算確保にも繋がる（いわき市）。

イ 漁業担い手の確保について

- ・若い人がいなくなってしまうと高齢化率が上がる。担い手の流出をくい止め、漁業に従事させる様な施策をお願いしたい（相馬市）。
- ・漁に出られないことで、若い人たちが他職業へ移ってしまう。若い人をつなぎ止める、復旧というよりもバージョンアップさせ、魅力ある、新たな人が参加できるような復旧を図りたい（新地町）。

ウ 共同化、協業化について

- ・残った漁業者には一人で建造するな、2 人でも 3 人でも組んでやるように指導している最終的には 15 隻程度となる見込み。船、漁協、仲卸 5 社で共同加工組合等の設立をイメージしている。いわゆる 6 次化をねらった動きをやろうとしている（相馬市）。

意見交換会出席者の発言要旨

地域	発言要旨
<p>県北</p>	<p>○今までの農業経営から脱皮して新たな考え方を求めなくてはならない中で、国・県がどういった支援をしてくれるか見えない。</p> <p>○このような集まる機会をもっと持って欲しい。</p> <p>○今までの農業経営から脱皮するために、バイオ燃料、植物工場、花の生産活動が考えられる。</p> <p>○農地の維持管理をしていくための国・県の指導、援助をお願いしたい。</p> <p>○山木屋の生活水は地下水と引き水なので山の除染が課題。</p> <p>○除染で表土を剥ぐだけでダメだったらもう一度基盤整備すべきであった。</p> <p>○地域全体で見たとき、担い手について、50～60歳の人の中で、経営者としての方向性を持っている人がいれば方向性を見いだせるのではないかと。</p> <p>○国の除染に関する方針が見えてこない。</p> <p>○住んでいる人が安心・安全でなければ消費者に安全・安心を届けられないため、安心・安全な山木屋に戻して欲しい。</p> <p>○福島県以外の人が、基準値以下であれば食べる(買う)という基盤ができていないとダメ。</p> <p>○山木屋以外(避難先で)農業をやりたいという人に対して、農地の幹旋や施設園芸の為の事業などの案内はあってしかるべき。</p> <p>○酪農について、牛舎の除染がない。食品を扱うものなので牛舎を新しく造るしかないと考えている。</p> <p>○山木屋で農林業をするための基本は、山木屋で生計を立てることができるかが条件。</p> <p>○安全・安心な農地・生活環境をつくってくれ、汚いものは取り除いてくれと言って1年半も経つが何の具体策もない。</p> <p>○どんな事業でも、地域が安全・安心であるという担保がない限りは絵に描いた餅になってしまう。</p> <p>○新しい農業を模索しても、今65歳の人については来れない。</p> <p>○帰りたい人に対して、帰った後の営農をどうするかについて話を進めなくてはいけない。</p> <p>○森林の除染は、本当のところどこまでできるのか知りたい。</p> <p>○5年後に避難が解除になっても山木屋で農作業はできても農業ができるか不安。</p> <p>○山木屋、飯館と名前が売れているため、除染が完了して営農できても価格の下落が心配。</p> <p>○森林除染と森林整備を一体的に実施できればよいと考えている。</p> <p>○間伐してバイオマス利用するにしても搬出するための路網整備が必要。</p> <p>○森林環境税や加速化基金を活用して少しでも森林除染が進むようになればよいと考えている。</p> <p>○酪農の循環サイクルが戻らないうちは振興を考えるに至らない。</p> <p>○高齢化、後継者の問題、先が見えない。</p> <p>○農地の基盤整備が進んでいない。中規模基盤整備が大切。</p> <p>○見通しのたつ農業を県にお願いしたい。</p> <p>○安全・安心の県の説明責任が大切である。</p> <p>○学校給食の放射線が0でないと認めない。これにどう対応するのか。</p> <p>○グルメ主義でないと太刀打ちできないのなら、現場で指導して欲しい。その体制構築を県で構築して欲しい。</p> <p>○改植事業も進まない。県がもっと本気になって欲しい。7,000万しかないではダメ。</p> <p>○他県から、支援してくれた方への恩返しが必要。それをしないと福島県の実存価値がなくなる。そういう施策が必要。</p> <p>○県独自の品種があれば最高であるが、生産コストが見合わない。</p> <p>○林業は30～50年かかる。放射性物質の汚染が問題。</p> <p>○表皮をはげば良いといっていたが、根から吸い上げていくと蓄積されていく。チェルノブイリの例からいくと15年がピークといわれている。15年は売り物にならない。</p> <p>○除染しないとどうしようもない。</p> <p>○木質バイオマス利用も灰はどうするかの問題がある。</p> <p>○育樹祭、森の案内人をやっているが安全・安心を訴えているが、親は0.1 μSV/hあれば行かせない。数値の問題ではない。心の問題であり、ケアして欲しい。</p> <p>○木が使えないのであれば、CO2吸収に応じて、ランク付けして支援していく。そうすれば森林の手入れは進むのではないかと。フォレストストック認証制度を参考にしてみたい。</p> <p>○草地の除染が大切。一部デントコーンしか使えない。</p> <p>○牛乳は汚染されやすいので、気を使っている。</p> <p>○農家自身が営農を継続できるかが不安である。</p> <p>○後継対策が急務であり、親が自信がない。</p> <p>○地域全体で後継者をつくる仕組みが必要であると考えている。</p> <p>○耕作放棄地の集積も必要だ。</p> <p>○福島市のイノシシ被害が多い。食べられないので獲らない。鳥獣被害対策の人材育成が必要である。</p> <p>○イノシシの対策の助成金など、人材もそうだがお金もかかる。鳥獣被害対策をしっかりとお願いしたい。</p> <p>○山林の保全対策も併せてお願いしたい。</p>

地域	発言要旨
<p>県北</p>	<p>○地産地消については、原発の影響で落ち込んでいる。学校給食の地産地消率は福島市のH22年度は40.4%からH23年度は0.6%に落ち込んだ。父兄が警戒している。</p> <p>○福島県の農産物は安全なんだと認識して推進して欲しい。</p> <p>○風評被害による市況格差が大きい。3割減。秋になっても市況が上がらない。ナメコも上がらない。大変厳しい。</p> <p>○除染対策をしっかりと欲しい。</p> <p>○公の検査結果が、流通業者等に信頼されていない。県、国がもっとしっかりとやらないといけない。</p> <p>○荒廃した桑園がある。補助事業があれば規模拡大してやっていきたいと考えている。</p> <p>○後継者対策で、遊休農地にセイタカアワダチソウが繁茂して、もったいない優良農地がたくさんある。I、J、Uターンにより優良農地に入ってもらえるのも一つの方法であると思う。地域に活力も生まれる。</p> <p>○美味しいの見える化。</p> <p>○遊休農地の集積化。Iターンの人も原発事故以前からがんばってやっている。</p> <p>○剪定枝の減容化対策を早急に示して欲しい。</p> <p>○福島の本木は全部ダメである。除染しても50～80Bq/kgあり、基準の50Bq/kgをクリアできない。</p> <p>○いいもの、安全なものは買うので、まずは除染からだと思う。</p> <p>○きのこにおける試験データをしっかりと欲しい。点数が少ない。(移行率も)原木しいたけは東日本が危ない。</p> <p>○じーちゃん、ばーちゃん達の小遣い稼ぎの本木採取(1000～5000本)は、所得申請していないので、賠償対象にならず、泣き寝入りしている。その対策をお願いしたい。</p> <p>○多くは望まない。「東日本大震災及び原子力災害から復興を果たした農林水産業・農山漁村」、「消費者の期待に応え、安全・安心な農林水産物を提供する農林水産業」この2点をお願いしたい。</p> <p>○プランは、現場の人に見える、地域計画を充実して欲しい。</p> <p>○(県北農林)ワンフrower化し、県北農林事務所の強いリーダーシップをお願いしたい。連携のとれた動きをお願いする。</p> <p>○あんぼ柿の生産額は40億、伊達みらいでも20億ある訳ですが、このまま何もしないとまた同じ結果になる。</p> <p>○線量が高いのは、改植、伐採が必要だが、立木補償、所得補償がネックとなっている。</p> <p>○賠償等県が窓口になって欲しい。</p> <p>○被害者意識から改植とか10/10でないとやらない。</p> <p>○地域の営農計画に柔軟に対応した事業構築をお願いしたい。</p> <p>○ベルトコンベアの検査の導入助成、研究費を計上してほしい。(ベルコン検査は野菜、果樹もやるべき)</p> <p>○再検査の報道のあり方について、10Bq/kg以下の細かい数値まで出さなくていいのではないかな。風評被害をつくりだしている気がする。</p> <p>○剪定枝の減容化。</p> <p>○他県からは学校給食で使っているんですか。と聞かれる。全くその通りで県内の学校給食で使ってもらわないとダメである。</p> <p>○セシウムの吸収対策の継続実施をお願いする。</p> <p>○森林の除染については、保育管理を含めた対策をお願いしたい。</p> <p>○原木生産がなくなった。広葉樹施業方法の検討を至急お願いしたい。</p> <p>○県産材の利用拡大として、個人宅への助成でフォローして欲しい。</p> <p>○会津のバイオマス施設も、皮付きはダメとなっている。そういうものも使えるようにして欲しい。</p> <p>○森林簿について、県からお借りしているが、国土調査実施分の精度は高いが、未了部分は図面と現地が一致しないことが多い。その点の再編もお願いしたい。</p> <p>○牧草が使えない。</p> <p>○国、国でなく、県から発信して欲しい。県から声を上げて欲しい。こういう会も裾野を広げて開催して、国へ声をあげて欲しい。</p> <p>○このような機会をもっと作って欲しい。</p> <p>○農業水利施設には8000Bq/kg超の土もあるが、除染計画には土地改良施設とは明記されていない。農業用施設との位置づけで後回し農用水が一番あとまわし、農家に使ってといえない。阿武隈川の水にはセシウムが入っている。</p> <p>○県から安全と発信してもらわないと困る。県から発信して国を動かして欲しい。</p>
<p>県中</p>	<p>○多くの会員は昨年より今年は改善されたと言っている。これは、農協はもちろん行政のトップセールを何度も行った成果だと思う。今後も手を緩めることなく、より強力で安全性のPRをしてほしい。</p> <p>○PRはもとより、除染についても消費者の関心が高い。これについても積極的にアピールしてほしい。</p> <p>○100%が望ましいが、地元の農産物を食べていることがよそ向けの一番のPRになると思う。</p> <p>○農産物の安全・安心のPRはもとより農業者が自信と誇りを取り戻せるような施策を考えてほしい。</p>

地域	発言要旨
<p>県中</p>	<p>○農業者の奥さんが新規就農者扱いにはなっていない。配偶者としてしか認められておらず、結婚しても経営が不安定であり、技術も仕事に対する自信もなく、他産業に流れて言ってしまう。奥さんには新規就農者と同様の支援をし、農業に定着出来るような環境を作ってほしい。そのような環境の中で、子育てをし、次世代の担い手を確保出来ることが理想。(花嫁就農資金のようなイメージ。)</p> <p>○風評被害については、経営計画の見通しが立てられるよう戸別補償のような施策あれば農業の再開が進むのではないかと。 ○若い農業者が他産業へ流れないような対策が必要。 ○福島は賠償金をもらっているのだから、他産地より安くても良いと中央の市場で話ができるのはおかしい。</p> <p>○若い人たちの就農について、経済状況の悪化により就職先がなく、専業農家の家庭では「親の後を継いで見ないか」という話も原発事故が原因で親も勧められない。風評被害の払しょくが必要。</p> <p>○須賀川で100ペクレル超の米が検出されたそんなに高くない地域で検出されたことで他の農作物も危険ではと不安になっている。詳しく調べて原因を公表しないと風評に繋がってしまう。しっかり調べてほしい。</p> <p>○女性の農業者の数は少ないが、農業に対する情熱は満ちあふれていると思う。女性農業者を巻き込んだ農業の担い手として活躍できる場を作ってほしい。 ○10年後の施策について、小学生、中学生から農業に対する意識を養う機会(体験学習等)を作っていくべき。</p> <p>○採草放牧地については、除染をやりたくても石がたくさん出て除染ができない。除染してから放射線量を測定して可否を判断するのではなく、測定して安全であれば放牧して良いことにするなど改善してほしい。</p> <p>○信頼を取り戻していくため、小学校へ出向いて消費拡大、安心して食べられる食育の取り組みを続けている。県からもアドバイスをお願いしたい。</p> <p>○除染するにあたり、機器の導入の支援が無く、自分たちが所有する機械で実施した。酪農家は大型の機械を持っており、今後、除染を頼まれるケースがある。機械の導入に係る資金面の助成等があれば、除染が進んでない方々へのお手伝いもできる。検討してほしい。</p> <p>○立木の線量調査、調査結果により伐採、集積、林外への持ち出しなど将来に向けて再造林を計画的に進めるべき。 ○全県下の山林でも幾らかでも線量が下がるような取組を実施するべき。下刈り、枝打ち、間伐等により線量低下を図る。 ○キノコの原木等について、早期の更新を図るべき ○安全が確認された木材については県森林組合連合会を通じ組合と林家が協力し、被災地の住宅などの復興に支援出来ることが先決。 ○新しいエネルギーとしてバイオマスの推進。 ○森林整備集約化事業を活用した森林整備の促進、協業化による低コスト化。 ○被災地から先行して山林の共同管理、委託管理に流動していくべき。 ○山林除染対策と森林整備計画を一体的に進めよう林業全体を再生させていく機会とすべき。 ○木材の販売 委託方式、販売方式から一発買い方式(現地で直接価格を算定し買ってもらう方式)の方が若い人の考えが強まっていくのではないかと。 ○今までどおり売れる体制づくり。米について、今売れているのは業務用しか売れていない。ブランド力がきちんと出せる体制づくり。 ○放射能汚染があったことが分からないような10年後になっていければよい。(もっと早くやらなければならぬが)</p> <p>○担い手の育成・確保、親の背中をみて子は育つ。風評被害にあって価格が伸びず、やる気が出ない。今年は特に風評被害がひどい状況だ。これを見た子どもは農業から離れてしまう。風評被害の払しょく対策をしっかりと行い、消費者の信頼確保、特にマスコミを上手く活用しながら消費者の信頼回復を図ってほしい。</p> <p>○JA、町村長とのトップセールスを進めてきたが、やはり県が1つとなってPRしていくことが重要だと思う。 ○これが0からのスタートとすれば、放射能問題だけでそれぞれが栽培に対する考え方を見直し、地産地消の考え方も重要と思う。 ○担い手の育成について、県では集落営農として推進してきた。しかしながら、なかなか前に進んでいない。もう一度進め方の検討が必要ではないか。 ○除染について、環境省との協議が手間取り永年性牧草の播種が間に合わない時期となってしまった。県からも強く国(特に環境省)に対しアプローチしてほしい。 ○米の全袋検査とモニタリングと併行してやっている。どちらかにしないと二度手間三度手間になる。厚労省に押し切られた形となったが県から強くアプローチしてほしい。</p> <p>○PRIについて、関東から人を呼びグリーン・ツーリズムの取り組みを行っている。TOKIOのCMが放送されているが、もう少し影響力が強い(みのもんだ等)人を起用するよう要望する。</p>

地域	発言要旨
<p>県中</p>	<p>○再生エネルギーを進めて行くのであれば、目先に目標を立て(プラントを2年後に整備するので、それを前提にバイオ稲を栽培する等)それを見せてあげないと進まない。これは行政の仕事である。</p> <p>○担い手について、不耕作の賠償について集積を図ってきた人が所有者から貸し剥がしの問題も発生している。これからの復興にネックになると思う。行政の指導及び関連法の改正等お願いしたい。</p> <p>○スーパーで言われたのが「学校給食で使用しているのか」これが一番の安心のPRになるのではないか。</p> <p>○公共建築物に県産材を積極的に活用し価格が上がるようお願いしたい。</p> <p>○バイオマスとしての利用について、スケジュール、推進における一定の流れを示してほしい。</p> <p>○風評とは何か。風評被害の実態を把握出来ないか。問屋が安全なものを買って、スーパーで販売する際に他の産地のものと混ぜて販売する等の問題もある。消費者の方だけが福島県産のものを嫌っているのか分からない。</p>
<p>県南</p>	<p>○今も出来ていないのが、担い手の育成について。中々思うように進んでいない。あえてそこを特出しして、30年先誰が農業を担っていくのかをしっかりと目標にしていけないと思ふ。</p> <p>○県自らが開発する等、民間と競争しているよりも、そこは民間に任せて、県は我々に何をしてもらえるのかの方が、目に見える主要な取組になると思う。</p> <p>○交流に来てくれた人は100%不安はなくなる。地道な積み上げが大事。ゴールデンタイムのテレビ番組枠を買うなど。</p> <p>○全国に、福島を何とかしたいという思いはあると思う。それを引き寄せる支援策が必要である。</p> <p>○県南地域は線量が低い森林から河川に流れて田畑に放射性物質が流れてしまっは困る。この辺の対策について明文化出来ないか。環境の維持・保全については改善された状態でないといけない。</p> <p>○木質バイオマスを推進するに当たって、運搬するための作業用林道の整備が必要不可欠である。県が再生可能エネルギーを推進する話が出ているが、具体的な一歩を踏み出しておらず、再生エネルギーと併せて机上の空論になっている。</p> <p>○情報発信、出荷先にきちんとしたPRすべき。出荷先に対するPRについて県が主体となり行動すべき。JAに任せきりではいけない。</p> <p>○バイオマスの関係で、懸念しているのは処分の関係。焼却灰の問題がネックになっている気がする。</p> <p>○避難先で営農再開したいという話があったが、やりたいならば土地はいくらでもあるのだから提供してあげればよい。福島県は全国ナンバー1の耕作放棄地面積を有しているが、それをどうしていくという考えがあれば対応できると考える。</p> <p>○移り住んでも構わないと思っている人に耕作放棄地を提供すればよい。ただ、しっかりと研修する、勉強する体制づくりが必要である。</p> <p>○間伐、木質バイオマスの利用にあっても、路網、作業道の整備が第一である。</p> <p>○小規模な森林所有者が多い中、いかに森林整備の考え方を持ってもらうかが大事である。</p> <p>○一人でやっているような大工さんは大きな製材工場から購入することを遠慮して、ホームセンターなどで購入している。零細な製材業者を育成し、大工さんが利用することが、地域の木材産業の活性化に繋がるのではないかと。</p> <p>○農業法人については、機械利用組合、集落営農、法人化というように段階を踏んで進めるべきと考える。</p> <p>○就農希望者の多くは有機農業という夢を持っているが、直接就農しても失敗してしまう。1年～2年しっかり研修してから就農する体制づくりが必要である。</p> <p>○被災者のための農業法人立ち上げを進めているが、農地のあてがない状況。農地を提供できるシステムを作っておけば、被災者も前向きにできるのではないかと。</p> <p>○JAでは損害賠償請求をしているが、満額支払われたのは昨年ぐらいまでであり1年分ぐらいはまともにも支払われていない。</p> <p>○バイヤーからは、「安全なのは分かったが、県南だけ安全でも福島県という名前が入っているのだから、県全体が安全で無いとダメ」と言われた。県全体での安全性のPRが必要。農協だけが来ても県全体のPRが見えないと言われた。県にもっと動いてほしい。</p> <p>○県南地域は被害の程度が低いと、事業や賠償金の面で受けられない。風評被害は県全域で発生しているのだから、事業等の制限をかけないようお願いしたい。</p> <p>○広大な森林全てを除染できないので、森林の汚染状況に応じて、間伐等による整備を行うことが重要である。</p> <p>○中間処理施設、最終処分施設等灰の処分方法が決まらなると森林の再生が進まない。</p>

地域	発言要旨
<p>県南</p>	<p>○森林の除染など可能か？除染という言葉が一人歩きしているが、仮置き場の問題等もう少し真剣に考える問題である。</p> <p>○労働者の安全・安心が得られるように健康管理をしっかり行う必要がある。そうしないと若い人が労働に従事できない。</p> <p>○30年前の木材価格は現在の4倍。搬出したものに見合う単価を決めて取り組まないと前に進まない。</p> <p>○農業施設の被害はそれほど大きくはなかったが、設置から30年、40年の施設が増えており、修復、更新に対する国、県の補助をお願いする。</p> <p>○ダム・ため池の土砂の線量が高いと新聞に出たが、対応もない中で報道されても困る。正確な情報の提供をお願いする。</p> <p>○テレビもいいが、若い人をターゲットにするにはYouTube、ラジオなどの媒体も活用してはどうか。いいことも悪いことも発信することで信頼されるのではないか。</p> <p>○震災により被災した施設の復旧に当たっても通常の手続きを求められた。そうした点の改善を県からも働きかけて欲しい。</p> <p>○除染できるのか、効果があるのかが見えない。田んぼの学校においても手袋をつけて田植えをするなど、子どもたちに安全を提供していかないと農業に対する関心を持ってもらえない。</p> <p>○土地改良区としても太陽光、小水力に積極的に取り組んでいきたい。組合員の認識が低かったり、大丈夫かといった思いがある。県の動きが見えてくると取り組む団体や理解も高まるのではないか。</p>
<p>会津</p>	<p>○原発事故に関しては、農産物が安全なのか、消費者の皆さんに食べてもらえるのかが問題である。</p> <p>○学校給食で、福島県内のものを敬遠しがちという話を聞いている。福島県民が一体となって、こういう危機を乗り越えていくということであれば、危険なものは提供出来ないというのは当然であるが、安全なものはPRしながら地産地消を大々的に出していく。</p> <p>○Iターンとまでは言わないが、Uターンで若い人たちに農業のみならず地域のリーダーとなってもらえるような方策が必要。</p> <p>○生産者サイドからの情報発信では限界がある。消費者サイドに他に選択肢があれば、福島産ではなくそちらを選んでしまう。消費者サイドも含めた、国や県の施策が必要。</p> <p>○実態の需給バランス以外に、放射能の影響により、仲卸、市場関係者等に安く買われてしまうのではないかと不安がある。その払拭を考えていただきたい。</p> <p>○関東首都圏からの小学生・中学生の農業体験、グリーンツーリズムを震災前は受け入れていたが、原発事故以降は皆無。その回復をお願いしたい。</p> <p>○全袋検査は安全安心のために必要だが、スムーズに行かないと、早場米は特にそうだが交渉がうまくいかない。生産者は安全安心との出荷時期の遅れとどちらかというジレンマがある。来年度以降、スムーズに行くように対応をお願いしたい。</p> <p>○セシウムを吸収する品種の開発も併せて行えば効果があると思う。</p> <p>○全国各地から直売会をやってくれという声が届くが、せめて関東までが限界で静岡・名古屋という赤字になってしまう。また、1回きりで次の展開につながらない。もう少し直売の方法も考えなくてはいけないと思う。</p> <p>○補助や減反政策などの優遇措置も現在は認定農業者に対してほとんどない。どのようなメリットがあるのかという問題提起をしたい。</p> <p>○集落営農については大きな集落では難しい。平場の大きな集落ではよっぽどのリーダーシップがないと難しいのではないか。</p> <p>○安全安心の促進、自分達の作ったものの安全・安心をいかに情報発信するかというのが課題。</p> <p>○来ていただいて現状を見てもらう。若松に来てみんなに現状を見てもらうというのが大事。心の交流も含めてやっていかないといけない。</p> <p>○地域産業の6次化、主役が1次産業から2次・3次産業へと移ってしまっている。いつの間にか農家が製造・販売にお世話になっている。農家への支援が必要なのではないか。</p> <p>○明治大学の学生を受け入れてきたことがきっかけで、今回明大の学園祭に出店した。このような地道な活動が必要だと思う。</p> <p>○農林業だけではなく、製造業、観光業と一体となったPRが必要では無いか。それには多少お金がかかっても有名な人を利用したPRが効果的である。</p> <p>○農産物の加工をやっているが、女性農業者の会合に行った際に、避難されている方から加工をやりたいという話があった。避難されている方の得意な分野の技術を是非習いたいと思った。そういったことをどのような形で出来るか。</p>

地域	発言要旨
会津	<p>○耕作放棄地が出ないように、若い人たちに就農してもらおう方策をとらないと折角整備したものが無駄になってしまう。積極的な取組をお願いしたい。</p> <p>○小水力の開発というものがこれから進んでくるかと思う。ただ、土地改良区には電気事業に関するノウハウが全然無い。地域の実情に併せてどのように進めていくか指導・助言等をいただければと思う。</p> <p>○今、搬出については非常に力を入れているが、このままいくと30年後には残った木を切るだけになってしまうのではないかと考えている。よって、これからは計画的に新植、手入れ、間伐、伐倒という森林整備のサイクル化を考えていって欲しい。</p> <p>○山を再生させれば除染につながっていくというのは中通りも会津も同じ。除染という考えだけではなく、森林再生という観点から、県内で線を引かずに福島県一体となって計画をお願いしたい。</p> <p>○今後の原木シイタケについては、時代の趨勢で菌床シイタケが主流になってきているが、また、県でも原木シイタケの生産振興に力を入れて欲しい。ただ、原木については、会津も含めて放射能の実害があり、原木の手配に県連を通じてやっているが、そのあたりも県の支援をいただきたい。</p> <p>○風評被害について、個人や組合で東京などに営業活動をした場合などについて支援策をお願いしたい。</p> <p>○1つのキノコから出れば、その地域全てに網をかけてしまうのではなく、もっときめ細かな野生キノコの規制にして欲しい。</p> <p>○地元の建築資材を使った仮設住宅は非常に評判が良く、今後復興住宅等に向けては、木材を使う仕組みをしっかりとつくらなければならないと思っている。地域材を使う取り組みとして古民家を再生させることも考えられる。</p> <p>○除染の水を川に流しっぱなしでは、漁業組合としての対策は無い。</p> <p>○採捕禁止の解除に向けてこれから組合で動いていくがハードルが高いので、行政のバックアップをお願いしたい。</p> <p>○行政では自然に優しい河川整備といわれているが、工事が終わった川を見るとあまりにも川がキレイになりすぎている。この状態では魚が住めない。魚にも優しい川をお願いしたい。</p>
南会津	<p>○福島県の農林水産物を正當に評価してもらえるように、早急に対策を講じていただきたい。</p> <p>○アスパラガスの生産量が減少傾向であるが、これに変わる品目と言ってもすぐには無理なため、アスパラガスの産地再生に取り組んでいただきたい。</p> <p>○食物の安全・安心に向けてGAPの取り組みがあるが、個人では難しい。行政の力を借りながらGAPに取り組んでいきたい。</p> <p>○農業に限らず、人をどうするか、地域をどうするかというのが大きな問題。人がいなくては地域が存在しない。</p> <p>○地産地消、地域で一番良いものを食べる。地域で食べていないものは外に出さない。</p> <p>○6次産業はそれなりの経営能力がないと出来ない。物を作って終わりではなく、どこにどうやったら売れるかというのを支援しないとイケない。</p> <p>○農家は原価計算をしない人が多い。ちゃんと指導して、地域でしっかりと経営できる人を育てることが重要。</p> <p>○この地域で一番はトマト。アスパラは厳しい。親身になって、そこにいる人に対して本当にためになる施策を実施して欲しい。</p> <p>○国の施策を丸写しにただで、福島県の独自色が見えない。福島の独自の施策を打ち出すべき。</p> <p>○福島がこのような状況になっている今こそ、行政とJAが協力してしっかりとした販売体制をつくること。例えば天のつぶの販売経路をどうするかとか。</p> <p>○1次産業がしっかりとしたものでなければ、いくらかけても6にならない。農業経営をどうやって安定させていくかというのが主題であって、6次化はそのパーツ。</p> <p>○公的機関が地産地消を実践していない。学校給食・老人ホーム等に外注で入っている業者の地元産の利用率が低い。</p> <p>○ソバの自給率が最近上がってきており、国内産も多くなった。仲卸で急に国内産のソバを買うようになったが、価格は安い海外産並に据え置いたままである。どうしても小売り有利になってしまう。統制は無理だろうが何か方法がないか。</p> <p>○農業については、担い手の育成、これにしっかりと取り組んでいただきたい。</p> <p>○若い人が農業に関心をもつきっかけとしては観光(農業体験・グリーンツーリズム)が考えられる。</p> <p>○ソバがいっぱい出来れば安くなる、米がいっぱい出来れば安くなるといった農業ではダメ。価格が固定されていないと農業はダメになってしまうのではないか。</p> <p>○中、浜は復興予算があり、それで間伐をやるので問題ないが、会津には復興の予算はないので、森林環境税で事業をやらしてもらえればと思う。</p>

地域	発言要旨
南会津	<p>○やっと軌道に乗ってきたが、オガの問題でどうしようもない時期があった。こういう点について、事故が起きたとき、いち早く体制が整えられるようにしっかりと対策を講じてもらいたい。</p> <p>○長い目で見られるような、子どもたちに森林の大切さを学んでもらう体験学習を進めていかないとダメなのではないか。</p> <p>○キノコの賠償、半分は支払われたがもう半分はまだ。果たして支払われるのかどうか。</p> <p>○山が荒れてしまうと全部ダメになってしまう。山の荒廃を防いで欲しい。</p> <p>○受入体制の整備というより、都市部と農村の交流の促進に力を入れて行くべき。</p> <p>○グリーンツーリズムに加えて、防災ツーリズムという視点を福島県としては取り入れていくべきだと考える。</p> <p>○やる気のあるところが頑張れる状態を作ることが大事。均等に、みんなに平均にという形では何も成り立たない。</p> <p>○やる気のある人たちに投資をするともっと良い動きになっていくのではないか。</p>
相双	<p>○水田、農地の復旧が一番先だと思う。できるだけ早い施工をお願いする。</p> <p>○風評被害について出荷者、販売者ではどうにもならない。知事も米、園芸品目の販売に力を入れてほしい。</p> <p>○学校給食において、測定して大丈夫でも福島県産はダメ。地場産でも大丈夫だということを理解していただきたい。</p> <p>○計画はすばらしいが、実際に全部やっていただけるのか。</p> <p>○牧草地の除染をもっと早く取り組んで欲しい。</p> <p>○食料を確保しなければならない反面、農業人口は減少する。効果的な補助、支援策が必要。</p> <p>○大規模化、協業化、企業化を進めた時、あぶれた農民をどうするのか？</p> <p>○原発事故による風評被害が一番大きい。東電の補償があるが、やりがいなくなる。</p> <p>○教育委員会、行政に対して、学校給食において地場産品を使うよう指導して欲しい。</p> <p>○東電の補償があっても作り甲斐がない。また、全額支払われていない。</p> <p>○担い手を維持するためには手厚い補助対策が必要。</p> <p>○基準値が変更となったことに対する支援策、解決策を示すべき。</p> <p>○若い人が農業をやめている。放射性物質の問題を発展的に解消できますという映像でも流すべき。</p> <p>○県は、賠償請求に全面的に取り組むこと。</p> <p>○大阪と相馬の放射能の数値は同じぐらい。全国の放射線量マップを作成するとか、不安感を解消するものを作ってほしい。</p> <p>○相馬の木は復興に使用できないのではないかと。相馬地方の森林はどれだけ再生できるのか。</p> <p>○1年7か月が経過し、浪江町の田畑はセイタカアワダチソウで黄金色となっているが、どう対処していくのか。富岡町、大熊町、双葉町、浪江町は5年は帰らないと議会で決定している。1年半でこうした状況なのに5年間でどうなるのか。農業の復興、再生がありますか？</p> <p>○このまま放置すれば農地がダメになるので、売れる売れないは別として除染も含めて農業をやる、作ることが必要。</p> <p>○地震の影響なのか、放射性物質の影響で復興できないのか、地域の実情に即した農業振興を図らなければならない。</p> <p>○今置かれている状況を、会津、中通り、浜通りそれぞれの地域毎に考えた上で国に要望して行ってほしい。</p> <p>○ほ場整備実施地区の担い手に施設園芸等を提案していくに当たり、ハウス導入に対する支援をお願いする。その際、浜通りの補助率を高められないか。</p> <p>○高齢者が福島県産を食べないこと、その人達が自分の子、孫へ伝えていくことで不安が広がっている。</p> <p>○県一律の計画ではなく、エリア別の計画が必要。</p> <p>○担い手確保が大変な問題。行政も農業振興公社、営農をやるような基幹組織を作らないと進まない。</p> <p>○2年間作付けしないことで農家の意欲がなくなっている。現実的な除染の方法であれば、農業者は非常に助かる。</p> <p>○山林から来るものを、どこで、どう抑えるのかをきちっとしないといけない。除染の体系をもう一度考えてほしい。</p> <p>○風評被害は来て、見て、地元のを食べて、交流を重ねることで和らいでいく。</p> <p>○施設園芸、植物工場を展開していくことへの支援をお願いする。</p> <p>○会津の木質バイオマス発電の原料基準は100Bq/kgとなっており、相双の木は使えない。研究努力してほしい。</p> <p>○除染が前提。山から除染してくるべき。東京の消費者を含めて納得のいく除染をしなければならない。</p> <p>○地区の農業を守るために認定農業者、担い手の負担が大きくなる。担い手に「やってみるか」、集落営農に「脈あり」と思わせる施策が必要である。</p> <p>○農地転用の規制緩和が必要。</p>

地域	発言要旨
相双	<p>○H25は米を作付けするかどうか分からないが、きちんと除染してもらわないと消費者も生産者も納得できない。</p> <p>○地域農業復興組合を立ち上げて津波被災農地の復旧作業を行っているが、ガレキが邪魔で作業が進まない。対応策を考えていかなければならない。</p> <p>○若い人、小さい子を持つ人は県外へ避難しており、そうした農地を誰が、どのように守っていくのが課題である。</p> <p>○もう一度小高区の組織化を図りたい。2つぐらいの大きな組織を考えていきたい。公社の設立に向けて議論を進めており、後継者が戻るまで今いる人間で条件整備していきたい。</p> <p>○大柿ダムの水は問題ないが、底質が攪拌された時にどう出てくるのかが心配である。ダムの改修、通水がきちんとされない限り、米づくりは無理だと思う。</p> <p>○風評被害があるので、口に入れられないもの、燃料化するということがプラントを誘致したい。また、大麻は放射性物質を吸収するらしいので、大麻を栽培し、燃料化することについて調査研究していきたい。</p> <p>○農業者としては、ソーラー、バイオマスなどの代替エネルギーと植物工場の設置、密閉型の魚の養殖場も考えている。</p> <p>○環境省から1mSv/年以下の農地は除染しないと言われた。地域農業復興組合では、刈り取った草の撤去は国が行うと思っていたが、農家がやらなければならないのか。集草、梱包しても置き場もない。最大の問題である。</p> <p>○デスクプランではなく、現況を捉えて、もっと意見交換の場を設けて欲しい。</p> <p>○受益者負担がある限りは、ほ場整備、再整備に対する同意を得ることは難しい。宮城県、相馬市のように受益者負担なしでほ場整備できるようにお願いしたい。</p> <p>○福島県は原発対応に力点があるようで、地震・津波被害からの復旧が遅れている様に感じる。</p> <p>○稲作のための農業機械を利用でき、夢の持てる、収入の得られる農業として、食べるものでない、代替エネルギーになる作物の導入もひとつではないか。地域では、ナタネとヒマワリ栽培について検討中。</p> <p>○この地域は施設園芸の適地であり、太陽の恵みを活用した農業、植物工場、施設園芸が大きな鍵となっていく。</p> <p>○仮置き場を含めて、除染をどうするのかきちんとして欲しい。若い人が帰ってこないのは除染が進んでいないため。</p> <p>○自分の県で、風評を作っているのではないか。自分の県のもを食べない。若いお父さん、お母さんがきちんと食べさせることが大切だと思う。</p> <p>○周囲の農家からは、「再開したら頼む」と言われている。担い手不足についてどうすればいいのか。</p> <p>○自分で草地を除染して10Bq/kgまで下がったが、与えていいのかどうか検討中である。どうすればいいかわからないのが現状である。</p> <p>○除染の一手法として再生可能エネルギーとしての燃料化が考えられ、市も調査事業に取り組んでいる。発電施設には、放射性物質の減溶化に対応する施設・設備が必要となる。</p> <p>○列状間伐等の手法、林業従事者の安全確保・高度な林業機械の導入により無用な被ばくを避けながら取り組んでいく必要がある。</p> <p>○風評の中、需要を確保していかなければならない。そのため、公共建築物の木造化、災害復興住宅の木造化を進めていただきたい。</p> <p>○部落では若い人が避難して戻ってこない。県の計画には30年後と書いてあるが、自分の部落は20年で半分～1/3になるのではないかと。30年後に人がいなくなってしまう。</p> <p>○飯館村では、農地・水の補助金を活用して水田等の草刈りを行ったが、柳が生えてきている。何とかそれだけは止めたい。</p> <p>○イノシシの被害で、田んぼの土手がほとんどない状況にある。田の真ん中も掘って、凸凹でモアの作業も速度上げられない。</p> <p>○試験的に除染しているが、30cmくらい掘り、赤土を客土している。米づくりは無理だと思う。将来はバイオ燃料などの方向で行くしかないのではないかと。</p> <p>○河川、ダムの除染はどうするのか、方策はあるのか。海にもやさしい除染をお願いする。</p> <p>○林業作業はリスクが多い。60歳前の人には林業には携わらないし、60歳以上の方は10年後には70歳で山に入れない。そのプランクをどのように補うのかお聞きしたい。</p> <p>○漁業者については、住む場所と働く場所は完全に分かれると思う。そうした意味でも施設を早く作らなければならない。</p> <p>○市場を集約して、公的な検査機関も一緒に設置し、間違いなく安全な水産物を早急に流通させる。このことが後継者対策となり、希望を持ってやれると思う。</p> <p>○原発問題をよく捉えれば、資源が残るということ。これを同じように獲ってしまっただけではダメだし、ヒラメの振興も見直して、新しい製品を作っていきたいとか、方向性を修正できるチャンスと捉えている。</p>

地域	発言要旨
相双	<p>○メーカーは、どのくらい使うか分からない中で、農業、林業、水産業皆が使う機械を開発してしまう。それぞれの用途に合った機器の開発に対して、県、国は費用的なものも含めて協力していく体制を取って欲しい。</p> <p>○若い人がいなくなってしまうと高齢化率が上がる。担い手の流出をくい止め、漁業に従事させる様な施策をお願いしたい。</p> <p>○漁に出られないことで、若い人たちが他職業へ移ってしまう。若い人をつなぎ止める、復旧というよりもバージョンアップさせ、魅力ある、新たな人が参加できるような復旧を図りたい。</p> <p>○小さい子を持つ親としては、心配な部分がある。生産者からの押しつけではなく、消費者の考えを聞いて、検査、安全のPRをしてほしい。</p> <p>○松川浦は水の流通が悪い。上流で除染し、その水が川に入ると直接海に流れることを、除染のあり方を考えて欲しい。総体的に考えて欲しい。</p> <p>○残った漁業者には一人で建造するな、二人でも三人でも組んでやるように指導している。最終的には15隻程度となる見込み。船、漁協、仲卸5社で共同加工組合等の設立をイメージしている。いわゆる6次化をねらった動きをやろうとしている。</p> <p>○丘の除染が終わらないと海の除染が終わらない。国は何年かかるか分からないとしているが、その点を徹底していただきたい。</p> <p>○商工労働部から浮体式風力発電の説明に来ているが、相双漁協としては反対意見を述べている。それにも関わらず進められている。計画に農林水産部の対応を謳っていただきたい。</p> <p>○検査機関の設置をお願いしたい。</p> <p>○振興計画自体には異論なく、30年、8年という長いスパンも当然大事だが、高齢の方が多く、生きている間に帰還できるのかという話が出てくる。</p> <p>○高齢者だけでは暮らしていけない。村の共同体として戻れる時期はいつなのか。当然除染はどういった形で行われるのか。こういった所が全く見えない。</p> <p>○バラバラに生活するのは辛い場合、働くところと住むところを分離して、みんなで働くところに通う(いわゆる工場化)方向で進める考えもある。</p> <p>○集団営農という形を考慮しないと1人でやると心が折れてしまう。集団で通いながら酪農をやりたい意見も出ている。NPOの立ち上げや集団営農の取組が出てきつつある。</p> <p>○パイロットファームの話がでたが、1つの事例が成功すれば波及すると思う。NPO法人はパイロットになり得ると思う。</p> <p>○友人が、避難先で落ち着いてキウイを栽培したいと言っているが個人では農地を見つけられない。行政の支援をお願いしたい。</p> <p>○安全な農産物を作っても消費者は買わない。どう安全性をPRしていくかが重要。</p> <p>○若い農業者はほとんどいない。専業では梨農家が若干いる程度、何から手を出していいか分からないと思う。若い担い手の育成はモデルのようなものを示す必要がある。</p> <p>○4月からは今まで培ってきた自分の経験を生かしてリンドウの栽培をはじめた。その際、土地を探すのが非常に苦労した。地元(東和町)の人に農地を紹介してもらった。</p> <p>○浪江町に本当に帰還できるか分からない状況であるから、新しいところ(避難先)で発展性を求めるべきだと思う。</p> <p>○山木屋地区で試験栽培を実施していると思う。我々も研究成果を取り入れて営農に生かしたいので成果を公表して欲しい。</p> <p>○帰還したら水耕栽培や施設型の栽培に頼らざるを得ない。また、口に入れるものは風評もあるだろうから、花の苗や嗜好品の栽培をやらざるを得ないのではないかな。</p> <p>○水耕栽培を始める場合、新たな技術を要する。帰還するまで技術を習得出来る機会を設けてほしい。</p> <p>○避難先で営農する際、施設を建てても数年後には帰らなければならない。農地を返す際は更地で返すこととなるため追加の負担が出てくる。出来れば遊休化している施設等を斡旋していただきたい。</p> <p>○農地の地力の保持と併せて気力の保持も重要な課題。</p> <p>○浪江町のアンケートでは、農地を買ってくれという農業者が多い。20ha,30haの農地を全国に公募すれば、やる気のある担い手が来るはず。そこで、新たな町民として受け入れるような町を築いて行くべき。</p> <p>○今の町民は帰還後のイメージが浮かばない。パイロットファームのようなイメージを作ってほしい。</p> <p>○農地の除染をしっかりとしてほしい。住居だけでなく農地も同時並行で進めてほしい。先祖から受け継いできた土地を荒らしたくない。この思いを県の施策につないでほしい。</p> <p>○大柿ダム水底に堆積している泥は高線量である。これから除染が始まるが我々に見える形で除染して欲しい。</p>

地域	発言要旨
相双	<p>○最初から売れないものを作らせることは絶対あってはならない。県として実証試験を早く始めてほしい。農業者が生計を立てられるような取組を考えてほしい。</p> <p>○双葉地方を特出しするべき。</p> <p>○国や県は、集落営農や集団的な農業経営、企業化に向けた取り組みを推進しているはずなので、10人雇える1次産業の農業者を10人育てる。そうすると100人雇える企業を誘致するよりも伸びしろが大きい。村の復興計画にも位置づけているため県にも十二分にすり合わせてほしい。</p> <p>○技術者の育成はもとより採算のとれる経営ノウハウをもった農業者をしっかりと育てていく支援が必要。</p> <p>○解除になってから行動するのでは遅い。今から営農再開に向けた準備をしていく必要がある。</p> <p>○高齢の農業者が持っている技術を若い担い手に継承していく。絶やさないような取組が必要。</p> <p>○産地として1つの品目ではなく、皆を必要とするサイクル的なものが必要。例えば、除染で表土を剥ぐ、たい肥(畜産農家)で地力回復、たい肥を準備するために木の伐採が必要(草地?)、木の伐採には林業者が必要、木を処分する焼却施設が必要となる。焼却の際に電気を起こす。</p> <p>○福島県の知名度は良い意味でも悪い意味でも高くなった。利用すべきだと思う。こんなに変わった。日本の中でも最先端の農業をアジア等、海外にPRしていくべき。</p> <p>○双葉地方の農業者にアンケート調査をした中で、営農再開にあたって、地元での再開ではなく、双葉郡以外(県内、県外)で営農再開したいという意見が多い。</p> <p>○双葉郡の農家はどちらかというと兼業農家が多く、平均耕作面積が約1ha程度で農業だけで営農再開して生計が立つか心配である。</p> <p>○今後、農業の知識が乏しい後継者がでてくる。後継者を養成する研修制度が必要となってくる。</p> <p>○放射性物質を完全に除去することが出来る取り組みが出来ないか。</p> <p>○農家が営農再開するにあたってかなり不安を抱いている。不安を払拭するような計画を検討してほしい。</p> <p>○戻って農業を一生懸命やった場合、農業で所得を上げることができる。雇用についても確保される。生活するには十分なお金が稼げるなどの青写真が必要。ビジョンを早めに示す必要がある。</p> <p>○除染の開始に併せて、担い手の育成、農業の法人化等を平行して推進していかないと農地は耕作放棄地化してしまう。</p> <p>○福島県だけが公表して、他県では公表しないで他県の方が安全だと思込んでいる人もいる。PRの手法(あらゆる対応策)を再度考えていく必要がある。</p> <p>○除染ではなく、間伐を推進し、少しずつ線量を減少させるように進めないと復興を第一に出来ない。</p> <p>○太陽光発電を設置するにあたって農地法の縛りがある。荒れた農地について、規制緩和が必要だと思う。</p> <p>○バイオマス発電について、県で1箇所モデルをつくり、検討を進めていくべきではないか。間伐材だけでやるのは労力と手間を考えると非常に大変。</p> <p>○1つの案だが、会津は米をつくり、浜通りは転作を頑張るような地域での取り組みを連携した考え方の検討も必要。</p> <p>○山林の保障について、樹齢、樹種によって線量が違う。30km圏内は管理出来ないため、管理不能に伴う損害を請求出来ないか。県からも動いてほしい。山林の賠償は遅い。</p> <p>○請戸漁協を復興し元の操業開始に向けて動いてほしい。双葉郡だけ取り残されてしまうのでは困る。</p> <p>○浜通りの復興が目に見えない中で洋上風力発電の話が先に進んでいる。これでは漁業者は納得しない。</p> <p>○風評被害を払拭する為にモニタリングを数多く実施し、安全性についてマスコミに報道してもらうことができればこれからの漁業の復興に役に立つのではないか。</p> <p>○線量の高い地域の若い担い手(自分の農地が使えなくなった人)に農地を集積させる様な取組を試みてはどうかと話をしていた。</p> <p>○モニタリングは量を準備することになる。全袋検査のような流れ作業で検査出来ないか。検査機器の開発も必要ではないか。</p> <p>○森林の除染は難しい。土砂から河川を通じて海までながれるのは間違いない。その中で、要所、要所で小さなダムを造り、土砂を止めてある程度の期間ごとに土砂を回収し、海への流入を防ぐ取組が必要と聞いた。土砂が流入しない方法を是非検討してほしい。</p> <p>○検査管理技士などではなく、もっと簡易に現場レベルで使える検査技師の確立や技術の確立等により、検査員が検査したことで安全を証明出来る組織が漁協の近くに置ければいい。</p>

地域	発言要旨
相双	<p>○本格操業となった際、県境で漁をするシラスやコウナゴ等の産地名、加工場の表示の仕方、安全のPR方法は検討しなければならない。</p> <p>○共同利用船の補助事業を受けているが、災害復旧上失ったものに対する補助は出来るが修理には使えない。そのような方に対する助成について検討してほしい。</p> <p>○20km圏内のモニタリングが本格的に実施されていない状況である。これからの試験操業にあたり、現在のモニタリングに併せて20km圏内のモニタリングを加えてほしい。</p> <p>○今の価値はゼロ。今ある木を置いておく(そのまま育てておく)ほかない。そうすれば、20年後、30年後にはさらに太って、価値のある材になるのではと思っている。それを待つしかない。</p> <p>○今年は米作りのリズムを取り戻すことをテーマにやっている。農家にはこうしたことが大切ではないか。</p> <p>○除染について、作土層が薄いところで、表土を剥いたら土が無くなってしまう。除染の方法について選択肢を与えて欲しいと環境省には訴えてきた。</p> <p>○森林を除染したとしても、洪水、災害で低い方へ流れてくる。また、立木が汚染されて、市場に出したところで販売できるのかどうか。科学的に分析して対策を考えて欲しい。</p> <p>○除染しなければ前に進まない。除染を早くしていただきたい。</p> <p>○担い手の確保であるが、大面積ならば機械を投入して森林整備できるが、小規模ではそうはいかない。</p> <p>○賠償については、東電の言いなりになって、なかなかこちらの言い分が通らない。</p> <p>○二次的な汚染を引き起こさないため、一度は汚染した土を剥いで、1か所に集めるなどしないといけないと考える。早く除染を進めてほしい。</p> <p>○除染をしっかり進めた上で、それから30年先のことが見えてくるのではないだろうか。</p> <p>○県としては振興計画作らなければならないと思うが、双葉郡のうち富岡、大熊、双葉、浪江については、振興計画も復興計画も立てることはできないと考える。</p> <p>○森林の除染がまずは基本だ。水源地が汚染されていると、その水を使って生産した米を検査してゼロだと言っても、風評で売れない。</p> <p>○福島県の米が売れない状況で、双葉郡の米が売れるわけがないと特に若い後継者は悲観し、農業に対する意欲がなくなってきている。</p> <p>○都会の人との繋がりを作っておかないとならない。実際に作業し、見たり、聞いたりすることで安心できるのではないかと。都会の人、ボランティアに来た人の力はすごい。</p> <p>○年配者は帰りたい、私自身も帰りたいと思っているが、(その見通しを)はっきり示してほしい。</p> <p>○住めないのなら住めない、それなら新天地でどうですかと、県としても口に出すことは大変だと思うが、その方が双葉住民も動きやすいのではないかと。</p> <p>○口にしたくないが、1日も早い、きちんとした補償してほしい。</p> <p>○大柿ダムの水は大丈夫だが、底質は凄い放射能を含んでいる。そうした水を使って、農作物を作ると大丈夫か、売れるのか。</p> <p>○双葉郡なりの再生の計画を作成して、(除染などの取組についても)科学的な検証もふまえて行っていかねばだめだと思う。</p> <p>○浪江町では、農業者の20%が戻る、70%は国に土地を買ってもらって農業をやらないと言っている。このような状況で、農業再生などできるのか、疑問である。</p> <p>○何も役に立たないということではなく、木を育てることが大事である。二酸化炭素削減の役割もあることだし、何かに使えるのだ、という観点で、木を(林業)をとらえてほしい。</p> <p>○双葉郡で避難している人達に、できるというところを見せたいと思っている。売れるとは思っていない。</p> <p>○双葉郡については、特別プラン的なものが必要だと思う。8年間の計画であれば、5年は避難で、残りは3年しかない。今まで以上に戻ってくる農家をバックアップするものであろうかと思う。</p> <p>○県全体で、戻ってくるように、しつこくPRすべき。そうでないと、5年も帰って来ないと、もう戻らないと思う。</p> <p>○企業化して若い人を入れられないだろうか、と思う。しかし、ネックはわらや牧草である。これが地元のものでないと経営成り立たない。</p> <p>○企業化して機械化を進め、また、飼育場所も1箇所を集めて、効率的に行きたい。さらに、他の作目の導入を図ることも大事。石川の市場が無くなるのは厳しい。</p> <p>○震災翌日に避難。全て窓を閉めて避難。夏場の高温で塩ビ配管が全てだめになった。復旧には1億、2億では済まない話である。</p>

地域	発言要旨
相双	<p>○設備がOKとなっても働き手がいらない。若い主婦層のパートがいらない。労働力が一番のネック。資材購入先(JA)や物流の再開もネック。</p> <p>○帰還がなかなか進まないようであれば、避難者を労働力として活用して、一時的な再開をしたい。土地の斡旋などしていただければ。また、せつかく育てた技術者を温存したい。</p> <p>○双葉郡にいて再開を臨んでいる人がいれば、農業団地の様な形で一緒にやれればと考えている。そのようなコミュニティを維持しながら帰還を待ちたい。</p> <p>○計画は、双葉地方は別にして立てるべきである。</p> <p>○楢葉においては、大規模な個人や水稲組合が中心となって担っていくようになるのではないかと。</p> <p>○農地を耕作できるように、農地は農地として守っていくことが大事。県はモデル事業などでこれを進めるべき。風評が続くのは覚悟の上。20年30年帰還にかかる地域でも、戻ることができるようにするべき。</p> <p>○安心して食べられるものをつくることできる、ということが復興に繋がると考えている。</p> <p>○組織的農業が解決策になると思うので、地域でリーダーシップをとれる若者とベテランの年配者との連携が図れるような計画としてほしい。</p> <p>○何年かかろうと、いつかはゼロになろう。それを少しでも早めていただきたい。そのための研究をどんどん進めていただきたい。</p> <p>○計画について、国が示したものに従うということではなく、自分たちがこうしたい、こういうものが必要だという方がインパクトが強くなるはずなので、安全のPRも含め、計画づくりしていただきたい。</p> <p>○家に戻れば、農機具はあるが、タイヤの放射線量が高く、持ち出せない。機械をあらためて導入することに支援をお願いしたい。</p> <p>○農地の斡旋などもお願いしたい。帰れないと思っているので、避難先で意欲ある者のやる気を支えるような、県の支援策を求めたい。</p> <p>○いわきの同業者がハウスを貸してくれた。さらに、農地を購入し、ビニールハウス400坪を補助で建設中。</p> <p>○いわきに来たがっている農業者は多い。</p> <p>○計画の8年間では双葉への帰還・営農は無理だと考えている。まして、中間貯蔵施設が出来たら全く先が見えない。現状では埼玉で営農を再開して、こちらで続けていくつもり。</p> <p>○県外に避難し、営農を再開しようとしている意欲のある人への支援策をお願いしたい。</p> <p>○双葉町への帰還・営農の再開については、除染・基盤整備がどれくらい出来るか。また、それに加えて作った作物を販売することが出来て、生活が成り立つかがどうか大事。</p> <p>○バイオマスなどの非食用の作物は、国や県が買い取るなど、販売の計画を考えて、販路をしっかりと取り組むべき。</p> <p>○やるという意気込みがある人には、全国どこへ避難しても営農出来る制度を国が整えるよう要望して欲しい。</p> <p>○農作物をエネルギーに活用するチャンスなのは。福島県は率先してバイオマスに取り組む宣言をしてはどうか。</p> <p>○基盤整備についても今がチャンスである。所有権は別としてもやる気のある人に農地を集約する方法を進める良い機会である。</p> <p>○これからは営農も法人経営が良いと思う。また、放射性物質の影響も考えると水耕栽培等も取り入れていくべき。</p> <p>○8年での帰還・営農は無理だと思っているが、10年後には帰還したいと思い、除染の手法等を探っている。</p> <p>○帰還への判断材料として汚染状況をもっと詳しく教えて欲しい。また、除染技術を民間から広く集めるべき。</p> <p>○県外の避難先で営農を再開しようとしている人の初期投資に係る経費への支援制度をお願いしたい。</p> <p>○警戒区域での営農再開について、バイオマスなど非食用作物で放射線量のある程度考えなくても良い作物については活用できるのではないかと。</p> <p>○除染を行っても、帰還して営農を再開するレベルまでは難しいと思う。今は埼玉で営農を再開しており、こちらで暮らしていく考え。</p>
いわき	<p>○津波被災地域や30km圏内は細やかな手当があるのに、中山間地の手当が乏しい。</p> <p>○特に中山間地域の牧草の除染を含めた畜産への支援をお願いしたい。耕畜連携のシステムが壊れてしまったので、その点をぜひ考慮を。</p> <p>○園芸品目について放射性物質の検査の進捗状況を教えて欲しい。</p> <p>○中山間地の土手に対する除染の取組が無い。手段も支援も無い。</p>

地域	発言要旨
いわき	<p>○牛がストレスで、受胎率が下がって、子牛の生産が落ちている。危機的状況。先が見える、農家が明るくなるような指導をお願いしたい。</p> <p>○山間部では鳥獣被害が深刻である。この対策なくして、農業振興は無い。</p> <p>○未だに、福島のは要らないといわれているところもある。今後も検査を行って、福島のは安全というPRを継続してほしい。</p> <p>○新たに就農したいという人が出てくるような、環境づくり、施策をお願いしたい。</p> <p>○農業の担い手の状況はかなり切羽詰まっている。将来のビジョンはいいが、現在をどうするか、ということが課題であり、そこを踏まえた上で、後継者の対策を考えて欲しい。</p> <p>○繁殖和牛に牧野干草が使えないこと、たい肥が滞留していることの問題があり、このままでは、3年もたてば福島県の和牛繁殖農家は半減、1/3～1/4になってしまう。</p> <p>○買い餌では、和牛繁殖農家は廃業せざるを得ない状況を理解して欲しい。</p> <p>○林業関係の除染で出た間伐材の仮置き場として牧野を活用できるように配慮願いたい。</p> <p>○担い手が不足している。これまで野菜栽培をしていた担い手が、風評により栽培をやめてしまった。どうしたら担い手の経営を成り立たせることができるかが課題である。</p> <p>○トマトランドいわきを建てた時は補助率が75%であったが、現在はせいぜい40～50%である。もっと補助率を高めれば、施設園芸をやりたいという人もいる。</p> <p>○大豆を推進し、作業機械なども揃えたのに、昨年からの飼料米に変わってしまった。農政が、その時々により変わったのでは、担い手を育成できない。一貫した農政をお願いしたい。</p> <p>○基盤整備に取り組んでいるが、一つには担い手の問題がある。また、イチゴ産地であるので、点在するハウスを集積したいが、その際の個人負担が課題となっている。</p> <p>○30km圏内の地区にあり、原発事故の影響で農家がいなくなってしまった。賦課金の徴収の問題もある。放棄地が増えて、若い者がいなくなってしまった。担い手が不足している。</p> <p>○米全袋検査について、神奈川県のある消費者は危ないから検査すると認識している人がいた。中央での風評対策をしっかりとやっていただきたい。</p> <p>○担い手から、全袋検査は手間と時間がかかり、いつ販売できるのか、いつ現金かできるのか、もっと効率的に実施できないかとの指摘がある。</p> <p>○原発事故に伴う避難、山に入れられないため仕事していないなど、作業員が不足している。</p> <p>○風評で材価が低迷、県産材の使用を控えるところもあると聞く。売れないと、材を搬出できず、事業が回らなくなってしまう。県産木材の利用促進を図る施策をお願いしたい。</p> <p>○現在の材価では、所有者が植林することは難しいため、何らかの手助けが必要と考える。</p> <p>○他県からシイタケが流入してしまえば、産業が失われてしまう。トップセールス、企業立地補助金を使って夢のある産業を作っていく。復旧もできていない状況の中、復興を謳うのであれば特区、交付金、産業を守る施策をお願いしたい。</p> <p>○公共施設の木造化が進んでいる。森林所有者、素材生産者、製材業者全てが県産材を使うとすれば、雇用に繋がる。公共施設の建設に当たって、まずは木造化ありきで検討していただきたい。</p> <p>○民間においては、木材の利用割合が高い建て物に補助金を出せないか。わかりやすく、目を見張るような数字を。山元を活性化するためには、川下に対する支援もお願いしたい。</p> <p>○復興に当たって、森林所有者、素材生産者、製材業者等の横の繋がりが深まった。協力体制の強化と県産材利活用をお願いしたい。</p> <p>○日本も生物多様性条約を締結している。自然・環境との共生の中にその文言が見えないので、検討願います。</p> <p>○原発事故に伴う避難、定年退職等で作業員が減っている。震災後、募集しても応募がない状況にあり、森林の除染、整備していく上で労働力確保対策をお願いする。</p> <p>○リサイクルチップが断られている。5年、10年は他県へ売ることが難しいと考える。安全のPRはもちろんだが、県内で消費すること、県が率先して使うことが重要である。</p> <p>○サーマルの原料に回す100ペクレル以下はあまりない。肥料系については、県内で使われない状況にある。県が復興に使いますと宣言すれば、今から仕込む人もいる。県が引っ張る姿を見せて欲しい。</p> <p>○いわき市では仕事があり、林業関係の人が足りない。補償を受けながら仕事ができる仕組みを考えて欲しい。</p> <p>○漁場整備、漁船等復旧、施設等復旧の三本柱で復興に向けて進んでおり、施設復旧に集約することなく、3本柱を明確に記載していただきたい。</p>

地域	発言要旨
いわき	<p>○第一原発の滞留水が放出されれば立ち直ることができない。計画の中に海洋への放出に反対するという文言を入れていただきたい。</p> <p>○残された船は、(古くて)整備しても故障の確立も高く、効率的な商売がしにくい状況にある。ここ3~4年はがんばるしかないが、新たな設備投資ができれば、市内の船員の雇用、採算確保にも繋がる。</p> <p>○復興特区に関して、一次産業の税制優遇措置がうまく組み込まれていない。沖合漁業は県外漁場で再開し、雇用にも繋がっているし、今まで以上の設備投資も必要な中、他業界並みの税制優遇措置をお願いしたい。</p> <p>○相馬では6月から試験操業、試験販売に取り組んでいる。今後本格操業となると魚種が増え、また新鮮さが重要であることから、検査体制の充実を計画に反映して欲しい。</p> <p>○江名の港の復旧が手つかずの状態であり、早急をお願いしたい。</p> <p>○いわきも昨日試験操業に向けた工程表が同意された。いつやるかという見通しは立っていないが一歩である。いわきの魚をいわきの皆さんに食べてもらうことをお願いしたい。</p> <p>○漁業の担い手確保、見通しが立たない状況にある。漁協としても対策に取り組むので、県からの御指導もお願いしたい。</p> <p>○復興に向けた取組の中で施設の 신설しても、それが賠償されるかという難しい面がある。賠償されなければ赤字となってしまうので、運営面を考慮して支援をお願いする。</p> <p>○製氷施設、加工施設等共同施設の形成によるコスト削減を図らないと加工業者は生きていけない。</p> <p>○平成27年にイオンモールの進出が予定されている。生もの、加工品について、大型店との結びつけていくための売り込みの手伝いをお願いしたい。</p> <p>○小水力発電について、農水省では小水力発電の調査事業が位置づけられているので、そういった面でも新たな産業の展開を模索していけると考える。土地改良区、SPCの活用を御検討ください。</p> <p>○水産加工業組合では、小名浜の市場跡地を利用して箱物整備を考えている。今の状況では運営の先行きが見えない状況にあり、支援をお願いする。</p> <p>○生産、加工、流通、消費の流れを考えなくてはならない。消費者という部分をどう展開していくか、具体的に計画の中に入れてもらいたい。</p> <p>○生産者と流通加工業者との繋がりはそれほど強くない、別々の意識、活動をとっていたが、見直しに当たって事業者の意見を聞くことは大きな力になるのではないかと思う。</p> <p>○他県が風評を持っているのではなく、自らが発しているのが風評であると認識している。</p> <p>○賠償の問題については、原発地域は賠償あるものの、いわき市ではない。そのあたりも重要視して欲しい。</p> <p>○客の入り込み、地産地消が厳しい中、いわきに来て、見て、現状を知って、食べて、帰って伝えてもらうことが重要。</p>